

JEACS

福音讃美歌 ジャーナル

2023.7 vol.35



CONTENTS

Page

座談会 日本語讃美歌の創作	1
荒瀬牧彦、高浪晋一、土井康司、中山信児	
青年の讃美 イムmanuel綜合伝道団編	5
吉村和記、館野真貴子、河村恵彦、馬場真一	

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing

■座談会 日本語讃美歌の創作

荒瀬牧彦（カンバーランド長老教会田園教会牧師）、高浪晋一（日本聖書神学校講師）、土井康司（日本同盟基督教団 下北沢聖書教会音楽主事）、中山信児（菅生キリスト教会牧師）

N（中山信児）荒瀬先生は、昨年夏に開かれたアメリカ・カナダ讃美歌学会の100周年記念大会に参加されたようですが、まずはそのあたりからお話していただけるでしょうか。

A（荒瀬牧彦）全体のテーマが「神の想像される世界を歌え」でヨーロッパ、南米、アジアからも多くの参加者がありました。その中で、脱植民地化というテーマが盛んに議論されていました。多くの讃美歌が植民地時代に作られ、今もその影響を受けているという問題意識です。アジア関係では「神が想像する世界で日本の讃美歌を描く（Imagining Japanese Hymns in a World God Imagines）」という分科会で、日本讃美歌学会の代表が持参した「Let a Tiny Stone Shout（叫べ、小さな石よ）」という歌集から発表しました。台湾の教会音楽家、駱維道（LOH I-to、1936-）氏の業績を振り返る分科会には駱氏ご自身も出席されました。教会音楽に自分たちの音楽伝統を用いることを大切にし、批判や抵抗に遭いながらも、神からの賜物としての民族性を活かす挑戦をしてきた、その歩みに感銘を受けました。

T（高浪晋一）日本讃美歌学会大会で駱氏を講師にお招きした時も、アジアの讃美歌の脱植民地化について触れておられましたね。僕も、既存の西洋音楽の旋律に日本語の詞を合わせるより、日本語の息遣いに合った旋律を作る方が良いと前から思っています。ルターもこの点について「テキストだけでなく音符もアクセントも旋律も歌いぶりもみな正しい母国語からのものでなくてはならない」と語っていますし。

D（土井康司）脱植民地化については、欧米の方々と私たちで感覚に多少のズレがあるように感じています。欧米の方は讃美歌についても日本的な音楽を喜ばれますが、古い日本的なものには異教的なものも含まれていて、例えば祭りの太鼓で神社の風景が連想されることがあります。私たちはそこを脱するために西洋のメロディーを使って、教会の空間を守ってきたところもあると思います。だから、ただ日本的なものを掘り起こして、日本のことばを付ければ脱植民地化になるかというところは疑問です。一方で、日本の「こ

とば」は日本の文化で、日本らしいものになるので、このことばに沿ったメロディーを作れば、自然と日本独自の、私たちが心を込められる音楽ができるんじゃないかというアプローチをしてるわけです。その点では、高浪先生に同意します。

T 日本語は、多くの外国語とは異なりリズムが均等な言語です。西洋音楽の拍子に日本語を配すると、フレーズが不自然な流れになってしまうことが多い。また外国語の賛美歌では長拍音符には意味のある単語が配されていますが、日本語はひとつのシラブルのみで、そこに意味はありません。それらの課題への取り組みとして、最近僕は、言葉や歌詞のフレーズが自然な流れで歌えるように、拍子を設定せず、八分音符的な流れにする又はチャント（朗誦）のように一つの拍に単語やフレーズを配したり、効果を狙う以外はなるべく音を延ばさないような作曲を試みています。そういう点では、最近の日本のロックやポップスから学ぶことも多いです。

また翻訳賛美歌にも問題を感じていて、多くがシラブル数の関係から、原詞の表現している内容がずいぶん省略されたり、いわゆる「教会用語的」なありふれた意識になっていたり。そしてまだまだ文語が使われたりしている。これもこれからの大きな課題だと思います。

A 賛美歌学会でも、海外の優れた作品を翻訳して小歌集を出していますが、その編集において讚美歌用語という手垢の付いた常套句に置き換えようとする傾向があると思います。原詞では非常に独創的で多様なことばや表現が使われているのに、翻訳になるとありきたりな表現になるのは問題ですね。J-Popなんかにはとても面白い表現があるのに、讚美歌を新しいことばで作ろうとすると、編集委員会で無難な歌詞に置き換えてしまう。

それから欧米の讚美歌では脚韻（詞歌で各行の末尾を同じ音にそろえること）を踏むことが約束事になっていますが、日本語では脚韻は技巧として使えないですね。原詞で歌うと韻を踏む心地よさや音楽的な魅力があるのに翻訳でそこは表現できない。日本語では、例えば頭のことばを揃える頭韻や他の技巧でことばの持つ音楽的な面白さを考えられないでしょうか。

D 今の若い人たちの音楽性は非常に優れていて、日本語との絡み方も斬新ですごくだと思いますが、礼拝の会衆讚美となると話は別だとは思いますが。ただ、非常に可能性は感じていて、ラップでは脚韻や頭韻も十分に楽しんでるし、10代、20代のそういう感性が讚美歌にあってもいいと思うんですけど、なかなか難しいですね。

N 歌詞を口語にすることは日本讚美歌の大きな課題でした。『讚美歌 21』がこの道を切り開いてくれたので福音派でも取り組むことができました。それでも、まだ古い語彙や表現から抜けきれないところがあって、ワーシップソングにも「我ら」や「給え」のようなことばがよく使われている現実があります。

T 西洋音楽に支配されシラブル数が限定されることで、ことば選びが縛られるのが原因のひとつだと思います。その問題が解決されれば、もっと自由な歌詞が生まれるんじゃないかな。

D ワーシップソングとヒムの違いで最近感じるのは楽譜の存在です。ワーシップの曲は、歌うと易しくても、付点音符に16分音符、それがタイで繋がったりと、楽譜ではとんでもなく複雑で見ながらはとて歌えないので、耳で聴いて覚えて歌わないといけない。でもヒムの人たちは楽譜が大事なので、ここが大きな断絶を生んでいるように思います。これからは讚美歌も耳で聴いて入っていただけるようにするのは大事じゃないかと痛感してるところです。

N 一方でシンプルな曲作りも大事ですね。タウネンドやゲティの讚美歌は、シンプルな中に現代的センスが生きていて、世界中で広い世代から支持されています。会衆讚美に限って見た時に、私たちが追求すべき讚美歌の方向性、新しい可能性みたいなものはどんな感じになるでしょうか。

T 私が賛美指導するときには、まず歌詞を、音程なしで、私が先に読んだものを耳で聞いて復唱してもらうんですね。そうすると文章の息遣いが自然に分かりますから。そして「その流れのまま、音程にのせればいいですよ」って言うと、みなさん、ほぼその通りに歌えるんです。楽譜を読んでも、音符に歌詞のシラブルを置こうとして、言葉そのもの息遣いが無視されてしまうことが多いですね。作曲する場合もそういった点から、抑揚やアクセント・リズム等が、語るような息遣いになるように努めています。

拙作の「キリストの前に」（『教会福音讚美歌』452番）は、奥野昌綱の作詞で『讚美歌』（1954）では

別の曲がついていたのですが、『讚美歌 21』の刊行時に委嘱され、そのような観点から日本語のこぼの息遣いとアクセント、リズムが合うように努めて作った曲です。

この曲のミーターは「8.8.8.9.8.8.8.8」で、それぞれのフレーズが「5+3」で成り立っているので、とても作曲しやすかったです。まず節冒頭の「キリスト」は大変重要なことばなので、自然に歌えるように八分音符で抑揚に合わせる形にしました。その後に出てくる各節同メロディーの「前に」「ために」「頼り」等は大事なことばなので、小節の頭（強拍）で言い直すようにしています。また「よろこび」「じぶんを」「かしらと」他、三連符を配せることばは統一して一息で意味を掴めるようにしていますが、ことばの息遣いによって付点四分音符+八分音符で表現している箇所もあります。そして各節3回目に出てくる「キリスト」という箇所は、さらに強調するために1, 2回目と異なった高い音から始めました。和声は、西洋音楽では最後の音程を一度、五度、一度にすることが多いのですが、それだと合理的で割り切れた音になりすぎるような気がして日本的な感覚とちょっと違うかなと思うので、自分で作る時は四度を使うことが多く、この曲も同様にしました。そしてなるべくシンプルな形にしたつもりです。

D 出だしの部分ですが、「キリストの」が1の和音「前に」が3の和音で、「喜び」で1に戻っています。これは西洋で珍しい進行ですけど、味わい深いんですね。どういう思いでここに三度を持ってこられたんですか。コードで言うとE♭からGmですが。

T この部分は、献身や信頼にあたる大事なことばが配されるので、同じ一度でもいいんですけど、強調の意味も込めてあえて三度を用いました。一度から三度への進行が個人的に割りと好きなものもあります。

D なんとなく^{かげ}翳りも感じて和風な印象も受けますね。

N 次に、荒瀬先生が作詞された『「光よ あれ」と』（『あたらしい歌2』9番）についてお聞かせください。

A この曲はローワン（William P. Rowan, 1951-）という人が作曲したものです。彼はまず曲だけ書いて、みんなに示して、それに反応した作家が詞をつけるという方法を取りました。だったら僕が日本語で詞を書いてもいいんだと思って、ずっとこのメロディーを思い浮かべながら道を歩いてたら、創世記1章のイメージが浮かびました。特に神のみことばによってこの世界が作られたということで、三つのことば「光よあれ」「世界に満ちよ」「全地治めよ」がぴったりだなと思って書きました。牧師として礼拝で語られる説教のことばと響き合う讚美歌を書きたいと思っていたので、これはその一つです。曲が先なので日本語とかみ合ってるかなという心配はありましたが、内容優先で書いてみました。

N これを最初に見たとき、曲と詞とどちらが先かとか抜きで、本当に良い讚美歌が生まれたという印象を受けました。ところで、ことばのない曲を作ってそれに歌詞をつけてくださいというローワンさんの取り組みについて高浪先生は何か思うところがありますか。

T この詞はよくできていて素晴らしいんですが、先にも話したように、既存の西洋音楽に日本語を配するのは、その特徴から少し不都合が生じてしまうと思うんです。曲を作る立場の者としては、まず詞があって、ことばごとに自然に歌えて、歌う者がその意味をしっかり把握できるようなメロディーとリズムを作りたいかなと。

N ことばの抑揚に音を合わせるのは大切ですが厳密に適用するのは難しいと感



荒瀬牧彦



高浪晋一



土井康司



中山信児

じます。ことばの抑揚と旋律が逆でも、全体の流れや勢いの中で成立していたり、音や語の単位では不都合に見えても、フレーズとしてマッチしている例はあると思います。この作品もことばとメロディーがフレーズとしてマッチしているのだから歌いやすいですね。

T 「初めに言（ことば）があった」んですから、やはり歌詞は大事だと思います。私たちが普段感情を表す時のことばの息遣い、それがメロディーとマッチしたときに、その気持ちや感情が一致して伝わると思うんですね。もちろんこれはどちらが良い悪いではなく、アクセントを揃えることもそれが最終目的なのではなくて、ことばを理解して歌ってもらうことが大事なので。

A 僕はことばを助ける旋律とそうじゃない旋律があると思うんです。自然なアクセントに近い方が気持ちが入るかという、必ずしもそうじゃなくてメロディーの美しさとか強さでことばが焼き付いちゃうことがある。我々としては、ことばがメロディーに乗って記憶に残って欲しいわけです。時にそれが通常の日本語のアクセントと逆だったとしても、魅力ある旋律なら生かした方が良くないかと思うことがあります。

N 高浪先生の「キリストの前に」と荒瀬先生の『光よ あれ』とは、詞も曲も対照的な二つになった気がします。どちらも私たちの歌集に収録されていますが、「キリストの前に」は、すべての節と段がきれいに揃った詞が先にあって、そのことばに見事にマッチした曲がつけられた例ですね。『光よ あれ』とは自由で広やかなメロディーが先にあって、そこに聖書のことばから詞がつけられました。ことばの強調点や流れが各節揃っているだけでなく、節ごとの展開が雄大で、その点でもメロディーとマッチしていますね。

T ところで、外国作品には『讃美歌 21』540「主イエスにより」のようにスラーを多用しているものがありますが、それに合わせて日本語訳を音引きにすると、意味が捉えにくく間延びして、音符に支配され、歌詞が振り回されているような気がするんですが。

N 外国の讃美歌を訳す時に、スラーは全部活かさなくても良いと思います。

A でも、スラーを外すと原曲の流れるような心地よさが無くなるという問題もありますね。賛美学会では海外からの讃美歌作家たちを招いて講演してもらうのですが、その度に招いた人たちから「あなたたちの讃美歌はどこにありますか。私の作品に興味を持ってくれるのは嬉しいけど、それより自分たちの讃美をどんどん作りなさい」と言われるんですよ。それが大事だと思うので、牧師や神学者、信徒でも書く力のある人たちに呼びかけたいと思います。

つい最近まで歌詞を書く人が僕しかいなかったんですけど、最近、新しい人たちが加わって僕の書く詞も厳しく批評してくれるので、すごく喜んでおります。けどまだ少ないです。詞と曲の割合は2対8ぐらいかな。書ける人はいっぱいいるんだけど、書けると思ってないっていうか気づいてない。

T 今、ある神学校で教会音楽の授業を荒瀬先生と共に担当させてもらっていて、「讃美歌の歌詞創作」という課題を出すんですが、みんな初めてなんですけど、結構、いい歌詞が生まれてくるんですよ。そういう機会が増えるといいなと思います。

D 福音讃美歌協会でも、作詞セミナーや作曲セミナーをやってきて、その成果を『あたらしい歌3』にまとめようとしているところですが、参加者はそんなに多くないですし、信徒の方が多いです。でも特に作詞の方で私たちが望むのは、神学的にも裏打ちのある歌詞、質の高いメッセージと対応して使えるような会衆讃美の曲で、となると牧師たちに作詞をして欲しいという願いはずっとあります。積極的に参加して下さる牧師が少ないのが残念です。忙しいというより、関心自体が少ないというか、自分にできることではないと思われるのでしょうか。ですからそういう方々が本当は私にもできるんだとか、作りたいと思っていただけるような機会が欲しいですね。

A 礼拝での会衆歌について言うと、まだ主題とか用途で不足している領域が多いと思います。そういうところに新しい歌を提供していきたいと思っていますので、それをする仲間を増やすことが使命だろうと考えております。

T 脱植民地化、これからやっとなスタートという気がします。日本人の作詞・作曲で共感し合える讃美歌が多く生まれてくることを願っています。多くの方にぜひ挑戦していただきたい。

D 讃美歌作りには若い力が必要だということを痛感しています。若い世代に良い感化を与えて、私にもできるんだという種を蒔いてくださる働きに期待しています。

青年の讚美 イマヌエル綜合伝道団編

吉村和記
館野真貴子
河村恵彦
馬場真一



吉村 今日はイマヌエル綜合伝道団の青年の讚美についてシェアするために集まっていただきました。インマヌエルでは中高生対象に、とにかくキャンプを始めようということで「とにキャン」があり、大学生以上では全国ユースステーション（YS、ビルドに改称）という名で数年に1回全国大会があります。皆さんは「とにキャン」やYSのバンドで奉仕をして来られたということで、まずは自己紹介からどうぞ。

館野 中目黒キリスト教会の副牧師の^{たての まきこ}館野真貴子です。好きな讚美はいっぱいありますが、田中満矢先生の「いのちの水」は好きですね。

河村 同じく中目黒キリスト教会の^{かわむらやすひこ}河村恵彦です。今年の教団年会の時に歌った「神の義と愛により」が好きです。応答讚美です。

馬場 同じ教会の^{ばば しんいち}馬場真一です。最近YouTubeで配信してるRuah Worshipの「聖い心」という讚美がすごくいいなと思って聴いています。

吉村 インマヌエル久留米キリスト教会牧師の^{よしむら かずき}吉村和記です。『インマヌエル讚美歌』562番「わが主イエスよひたすら」は大好きです。では皆さんが讚美の奉仕をするようになったきっかけからお願いします。

館野 私は神学生になる前はユース同士でいろんな集会に出たり、献身してからは主に「とにキャン」と教会のワーシップを中心に礼拝のリード等をしてきました。

河村 僕は「とにキャン」にキャンパーとして行って、そこでバンドスタイルの讚美を知って「教会でもやりたいね」って話をして、教会で楽器を覚えて讚美奉仕をやるようになって、高校卒業後に「とにキャン」の讚美に関わるようになりました。YSでギター弾いたり、リードもやりました。

馬場 僕も初めて讚美チームに入ったのはYSで、全国YSの讚美チームでコーラスだったのは覚えてます。大学生でした。「とにキャン」や教会やK G Kでも奉仕しました。

吉村 バンドやリードをやる時に気をつけていたこと、気づかされたことなどありますか。

馬場 僕は自分がリーダーという意識はなくて、チーム全員が讚美をリードしてると思ってます。大事にしたいのは、メンバーがお互いを知るための時間を練習と別にできるだけ取りたいと思っています。

河村 讚美はその場でしか生まれないうし、メンバーも会衆も、その場にその人がいなかったら別の讚美に変わるので、一瞬一瞬を大事にしています。不安材料をどれだけ本番までに潰せるかも考えます。音楽的に不安だったら入念にやるし、靈的に不安なら聖書を読もうか、みたいな話もします。

館野 私も信頼関係やコミュニケーションを大切にすることと、その人の持ち味とか靈性を活かせるようなチーム作りや、そのチームでしかできない讚美を捧げることを大切にしています。その時々々に神様がどう導かれるかを大切にしながらそれを楽しむことも大切だと思います。

吉村 選曲について、気をつけてることや考えてることがありますか。

館野 流れを大事にしたいので、その日の説教テーマを中心にまず応答の讚美から考えます。自分でひとり礼拝をしてみて、主を求めるところからメッセージに入る流れを自分の中で組んで、テーマに沿って考えます。

河村 自分も礼拝をイメージした時は、流れをどう構築できるかが選曲基準になります。きっかけの曲が幾つかあるので、それを中心に肉付けしてちょっと変えたりしながら流れを考えます。あと応答の讚美がメッセージとちゃんとリンクしているとか、一つの礼拝として会衆の意識が途切れないことは大事だと思います。

館野 トラディショナルな礼拝に慣れている会衆には、流れを大切にするとワーシップスタイルが難しいということを再認識しています。ワーシップスタイルで恵まれたという声もありつつ、「いつ座ればいいの」「立てて辛い」「分かる讚美にして欲しい」という声もあり、会衆によって全然違うので難しいと思いました。

馬場 会衆が礼拝に集中できることが一番だと思うので、讃美によって礼拝により深く入っていけるような選曲を心がけてます。まず自分たちが心から礼拝を捧げられるプログラムを作るんですけど、同時にみんなで一緒に礼拝に向かえるような選曲が難しいですね。

河村 自分たちは讃美リードはするけど演奏する人だと思っていて、会衆も「リーダー」であってほしいと思うし、そういう人たちが主体的に捧げるのが良い讃美だと思うので、自分がリードしていても会衆の反応はよく見ます。流れを知らない会衆にもある程度次の展開が予測できることも大事だと思うので、入りやすい出だしや、歌いやすい息継ぎのタイミングを作ってあげるとか、意識を途切らせないで曲をどう終わらせるかも大事にしています。

馬場 ワーシップリーダーは讃美を導く立場なんですけど、あくまで礼拝者だということを意識するし、讃美チームでもまず確認したいですね。自分が心から礼拝してないと良いリードができないというのはすごく感じます。

館野 私は未だに、こんな者が前に立って良いのだろうかと思う事があります。でもその度に、ただ主の憐れみによって立たせていただいているという所に立ち返って、ありのまま、一人の礼拝者として主を喜び楽しもうと、いつも心に留めています。

河村 そこは常に試されると思います。状態がどうれ奉仕は降ってくるし、チームにも会衆にもいろんなコンディションの人がいて、そういう人たちがポジティブなこともネガティブなことも全部神様にお任せできるのが讃美だと思うので、受け止めてくれる神様を信じて、どれだけできるかが問われますね。

吉村 メッセージーとの打ち合わせについてはどうですか。

馬場 讃美や礼拝の流れを気にかけてくださる先生はありがたいですが「お任せします」という方が多い気はします。良かったのはK G Kの全国集会で、半年ぐらい期間があったので讃美チームで讃美の学びをしたり、練習の度に分ち合ったり、祈ったり、交わりをして本番を迎えられたので一致して礼拝を捧げられました。みんな学生で時間もあったから、できたと思うんですけど。

河村 僕の中では、計画できない流れ、アドリブ性と言うか「その場でしか生まれなかったよね」みたいな時は最高だと思うんです。本番で打ち合わせにない展開になったときは、すごいなって思いました。僕らのコントロール外の何かが動いているような感覚がしましたね。

館野 技術面でも信頼関係でも聖霊の導きに応えられるメンバーだったんでしょうね。

吉村 皆さん、曲についてもアンテナ張り巡らしていると思うけど、どうですか。

河村 歌い慣れてたりセットリストが組みやすい讃美もあるし、どこに入れても最高みたいな讃美は入れちゃう。新しい曲を入れすぎると分からなくなるので、ラインナップがそんなに増えないというのはあります。もっといろんな讃美を知りたいです。あと「とにキャン」だと盛り上がる讃美がY Sだとそうでもないとか、その逆もあって、そのコミュニティや年代にあった讃美もあると思います。

吉村 みんなが一番奉仕してたのは学生の頃ですね。次につながる新しい奉仕者はどうですか。

河村 「とにキャン」で奉仕していると、休み時間に「楽器触らせて」とか言ってくるので、そういうので引き継がれるのもあるでしょうね。

馬場 そこ大事ですね。今やってるメンバーがいなくなったら終わりってというのはちょっとね。

河村 僕は中高生科での讃美奉仕から始めて、徐々にステップアップできたのはありがたかった。いきなり礼拝でとなるとハードル高いので、少しずつステップアップするのは必要でしょう。今は僕らから「一緒にやってみない」という感じなんですけど、僕ら自身は自発的に勝手に讃美しましたね。そういう熱とかエネルギーをどれだけ引き継げてるか、そういう場があるだろうかって思います。

吉村 長い間、中高生キャンプを続けてこれたことは大きいし、そこから献身者が出ているのは尊いことだと思います。青年大会も大いに用いられてきましたね。今日はありがとうございました。



* 会計報告 *

2022年4月～2023年3月

■収入の部■

科 目	2022 年度予算	2022 年度実績
会員負担金	1,210,000	1,044,000
(正会員)	(750,000)	(750,000)
(準会員)	(60,000)	(60,000)
(賛助会員)	(400,000)	(234,000)
自由献金	400,000	320,000
積立金取り崩し	100,000	23,000
特別収入	0	0
その他	0	11,137
当年度収入合計 (A)	1,710,000	1,398,137
前年度繰越金	2,181,347	2,181,347
収入合計 (B)	3,891,347	3,579,484

■支出の部■

科 目	2022 年度予算	2022 年度実績
理事会費	95,000	30,921
委員会費	90,000	89,448
人件費	360,000	360,000
事務費	225,000	157,209
ジャーナル発行費	240,000	113,922
カンファレンス開催費	165,000	90,550
総会開催費	0	0
JEA 関係費	90,000	91,324
経常支出合計	1,265,000	933,374
特別支出 積立金	100,000	100,000
予備費	900,000	261,800
当年度支出合計 (C)	2,265,000	1,295,174
当年度収支差額 (A) - (C)	-555,000	102,963
繰越額/残高 (B) - (C)	1,626,347	2,284,310

●賛助会費納入者・献金者一覧 (2022年4月～2023年3月) (敬称略)

個人：斉藤眞木子、菅原早樹、山村雅彦、本間昭弘、石川岩夫、田近喜恵子、森本範博、中川啓子、横倉知恵、安西仁美、福田崇、藤本侃也、渡辺真理子、大賀勝範、篠田安子、李俊昊、匿名（17名）
 教会：キリスト教朝顔教会、都賀キリスト教会、下北沢聖書教会、結城福音キリスト教会、上作延キリスト教会、千歳烏山光の子聖書教会、インマヌエル武蔵村山田園教会、登戸教会、菅生キリスト教会、インマヌエル富士見台教会、馬天キリスト教会、泉キリスト教会、前橋キリスト教会、インマヌエル板橋キリスト教会、橋本キリスト教会、日本福音キリスト教会連合（16件）

お名前掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール (info@jeacs.org) で、その旨をお知らせください。

ご挨拶と支援のお願い

「そして彼らは主を賛美し、感謝しながら『主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに』と歌い交わした。こうして、主の宮の礎が据えられたので、民はみな主を賛美して大声で叫んだ。」
エズラ記 3章11節

主にある皆さま

聖なる主の御名をほめたたえます。

いつも福音讃美歌協会 (JEACS)の働きのためにお祈りとご支援をいただき、心から感謝いたします。感染症との3年に渡る絶え間のない闘いの中、キリスト教会の礼拝は様々な試みを受けましたが、会堂にはようやく高らかな賛美の肉声が響き渡るようになり、心から主をあがめています。賛美もまた教会の礎です。

昨年9月によりやく奏楽音源 USBメモリが販売されました。これは『教会福音讃美歌』と『あたらしい歌 2』に掲載されている546曲のメロディと奏楽音源を収録したものです。予想を上回る売れ行きで、そのニーズの高さを実感しています。販売が遅延しましたことを重ねてお詫びいたします。この音源の活用と普及のために、2/8に「使い方に関するwebセミナー」を開きました。フリーソフトを用いて音程や速さの調整ができる方法を、李理事長を講師として皆さんと共有しました。これはYouTubeにて公開されていますので「JEACS」で検索し、ご視聴ください。昨年度は続けて7/8奥多摩webセミナー、6/4及び10/1には讃美歌作曲webセミナーがZoomを用いて開催されました。参加された皆さまには心から感謝申し上げます。讃美歌作曲webセミナーはYouTubeで視聴できます。各種セミナー等の開催につきましては、ニュースレターやホームページでお知らせします。どうぞご期待ください。

さらにコロナで中断していたオーディオコンサートの開催申し込みを再開し、諸教会の宣教活動に微力ながらお役に立ちたいと願っています。詳細は事務局までお問い合わせください。また、9月に開催される第7回日本伝道会議に福音讃美歌協会としてブースを出展し、『教会福音讃美歌』のより一層の普及に務めていきます。理事長が現地に赴きます。見かけましたらどうぞ声をお掛けください。小歌集『あたらしい歌3』は2023年度中の発行を目指しております。ご寛容をもって、もうしばらくお時間をいただきたくお願い申し上げます。

福音讃美歌協会の働きは、皆様の祈りと励ましと献金によって支えられています。また正会員、準会員、賛助会員としてお支えくださる方々も引き続き募っております。ぜひご検討ください。皆様の上に主からの豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。

福音讃美歌協会

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆ゆうちょ銀行口座◆

〇一八店 普通 7252410
一般社団法人 福音讃美歌協会

■福音讃美歌協会 ◆賛助会員募集

- ・「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援して下さる教会や個人の会員です。
- ・賛助会員のお申し込みは、福音讃美歌協会までメールかFAXで入会申込書をご請求ください。
- ・賛助会員の年会費は、一口5,000円で、個人は一口から、教会は二口からでお願いします。
- ・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。



福音讃美歌協会 (JEACS)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921 (いのちのことば社出版事業部内)
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org
Facebook YouTube JEACS で検索してください。